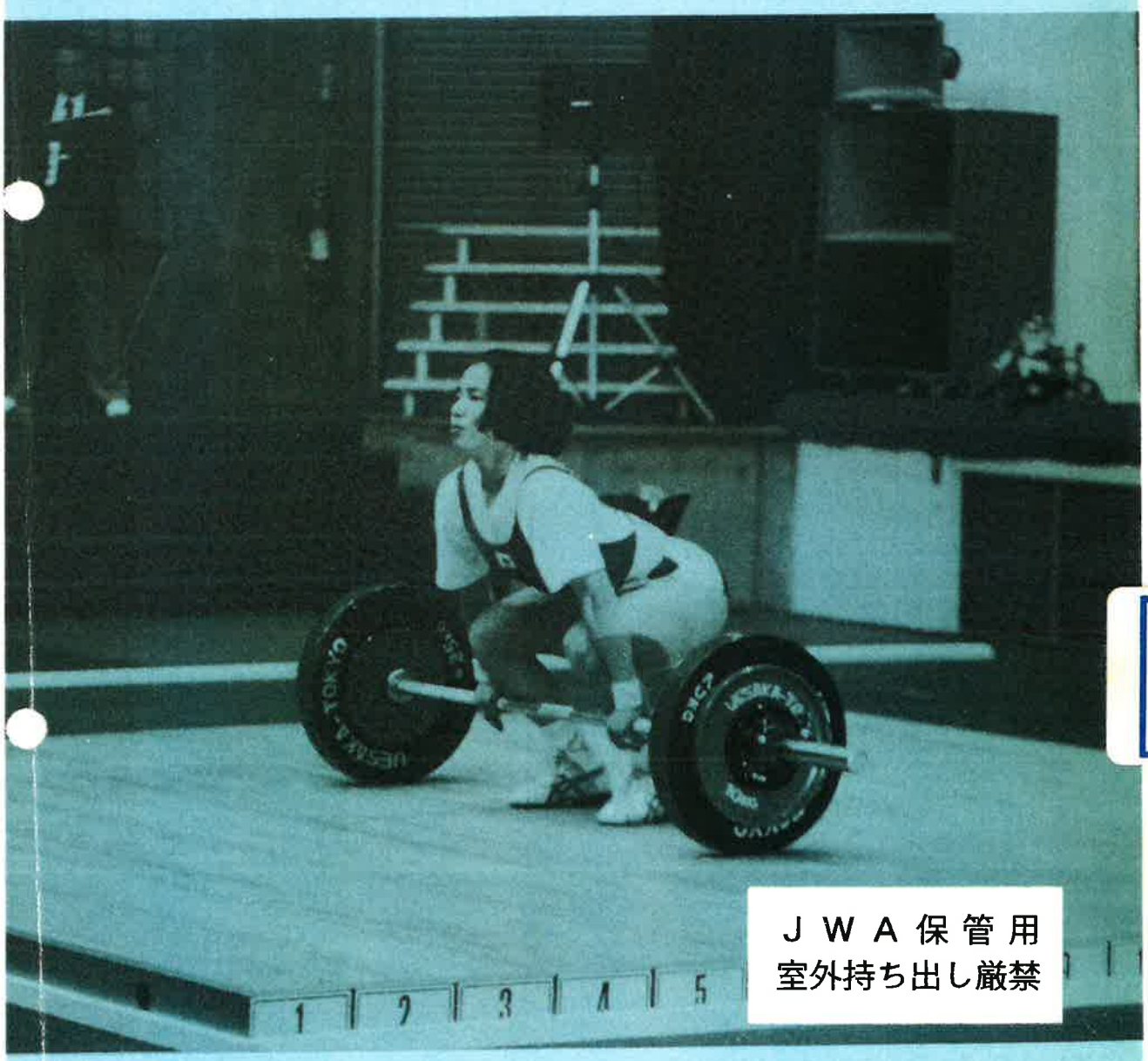
Japan Weightlifting Association

ウエイトリフティング



ＪＷＡ保管用
室外持ち出し厳禁

1993 No.57

(社) 日本ウエイトリフティング協会会報

ウエイトリフティングNo.５７

目　　次

第１４回全日本ジュニア選手権大会 …… 2

第１回東アジア競技大会 …… 4

第１９回ジュニア世界選手権大会 …… 6

第７回全国女子選手権大会 ……14

倉敷市にウエイトリフティング専用施設が完成 ……19

第３９回全日本学生選手権大会・個人戦 ……20

第５回全日本女子学生選手権大会 ……22

1993ｼﾞｬﾊﾟﾝ ｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙ ﾌﾚﾝﾄﾞｼｯﾌﾟ ﾄｰﾅﾒﾝﾄ ……23

永遠の記念碑 ……30

※　表紙は、ジャパンインターナショナルフレンドシップトーナメントにおいて中国選手を体重差で下し優勝した５４kg級植村ひろみ選手(京都体育協会)。

第１４回全日本ジュニア選手権大会

●平成５年４月３日～４日 ● 埼玉県立スポーツ研修センター

54kg級

順位	氏名	県名	所属	体重	スナッチ 1	スナッチ 2	スナッチ 3	クリーン&ジャーク 1	クリーン&ジャーク 2	クリーン&ジャーク 3	ベスト スナッチ	ベスト ジャーク	トータル
1	斎藤 和巳	兵庫	明治大学	53.70	90	95 ×	95	120	122.5	130 ×	95	122.5	217.5
2	佐々木 徹	北海道	中央大学	53.70	95	100 ×	102.5×	115 ×	120	125 ×	95	120	215
3	元井 裕輔	千葉	日体大	53.80	95	100 ×	100	115	117.5×	117.5×	100	115	215
4	打田 政人	三重	中央大学	53.10	90	92.5×	95 ×	110	115	120 ×	90	115	205
5	小俣 重人	山梨	日本大学	53.15	85 ×	85	90	110	115	120 ×	90	115	205
6	鈴木 和之	宮城	日体大	53.70	85 ×	85	90 ×	115 ×	115 ×	115	85	115	200

59kg級

1	塚本 誠進	秋田	法政大学	58.25	105	100	112.5×	135	140	145 ×	110	140	250
2	岩佐 正広	宮城	日体大	58.50	97.5	102.5	107.5×	125	130 ×	130 ×	102.5	125	227.5
3	木村 一彦	兵庫	相生産高	58.55	100	105 ×	105 ×	120	125	130 ×	100	125	225
4	藤田健太郎	兵庫	明治大学	58.70	90	95	100 ×	120	125 ×	125 ×	95	120	215
5	重山 康彦	宮崎	中央大学	58.65	90 ×	90 ×	90	110	115	120 ×	90	115	205

64kg級

1	宮路 由久	鹿児島	大阪商大	63.15	120	125	130 ×	135	140	145 ×	125	140	265
2	田中 邦彦	山梨	日本大学	63.40	105 ×	105	110 ×	135	137.5	140 ×	105	137.5	242.5
3	山本 俊康	福岡	九国際大	63.35	105	110	112.5	122.5	127.5	132.5×	112.5	127.5	240
4	梶原 誠	大分	日体大	63.60	110 ×	110	115 ×	130	135 ×	135 ×	110	130	240
5	岡田 正伸	埼玉	自衛隊体	63.10	92.5	97.5	100	125	130	135 ×	100	130	230
6	渡辺 裕斗	北海道	中央大学	62.55	100	105 ×	105 ×	120 ×	120 ×	120	100	120	220

70kg級

1	鐘 邦彦	滋賀	中央大学	69.00	110	115	120	137.5×	137.5	142.5×	120	137.5	257.5
2	佐藤 公治	愛知	日体大	66.20	105 ×	105	110	130 ×	130	135	110	135	245
3	仲村 隆	沖縄	明治大学	69.00	110 ×	110	115 ×	135	140 ×	140 ×	110	135	245
4	白井 和人	北海道	明治大学	68.65	107.5×	107.5	112.5×	135	140 ×	140 ×	107.5	135	242.5

76kg級

1	渡辺 直人	山梨	日本大学	74.55	117.5×	117.5	122.5	155	157.5×	157.5×	122.5	155	277.5
2	増井 敬治	徳島	明治大学	75.85	125 ×	125 ×	125	145 ×	145	155 ×	125	145	270
3	上野 栄介	兵庫	中央大学	74.50	120	125 ×	125 ×	140	145 ×	145 ×	120	140	260
4	森田 稔哉	東京	早稲田大	75.00	107.5×	107.5	115 ×	150 ×	150	162.5×	107.5	150	257.5

83kg級

1	安井 盾	大阪	明治大学	81.85	125 ×	125	130	160	165	170 ×	130	165	295
2	細渕 芳明	埼玉	拓殖大学	82.45	120 ×	122.5	150	155 ×	155 ×	155 ×	122.5	150	272.5
3	河島 隆行	岡山	日体大	82.40	117.5×	117.5	122.5×	142.5	147.5×	150 ×	117.5	142.5	260

91kg級

1	三瓶	芳正	東	京	池上スポ	88.65	130	×	130		135	155		160	×	160	135	160	295
2	木村	芳広	埼	玉	自衛隊体	84.30	120		125	×	125 ×	150	×	150	×	150	120	150	270
3	村田	潤治	兵	庫	大阪商大	87.35	110		115		120 ×	145		150		152.5×	115	150	265

99kg級

1	佐野	衛	埼	玉	自衛隊体	98.80	120	×	130		140	160	×	160		175	140	175	315
2	吉原	靖幸	大	阪	大阪商大	97.75	110		115		120 ×	140		145		150 ×	115	145	260
3	立花	信生	福	岡	明治大学	91.20	105		112.5		117.5×	135	×	135		142.5×	112.5	135	247.5

108kg級

1	吉本	久也	沖	縄	法政大学	106.65	140	×	140		150 ×	180	×	180		190 ×	140	180	320
2	小川	和行	静	岡	日本大学	106.60	120	×	120		125 ×	155		162.5×		162.5×	120	155	275
3	石井	伸幸	岡	山	日体大	105.95	110		117.5		122.5×	140	×	140		150 ×	117.4	140	257.5

+108kg級

1	青木	延明	栃	木	日本大学	117.55	125		130		135	170	×	170		175 ×	135	170	305
2	小松	政志	山	梨	日本大学	125.65	130		135	×	135 ×	160		170		175 ×	130	170	300
3	烏山	一郎	高	知	九国際大	108.60	110		117.5×		117.5×	135		140	×	140	110	140	250

第１回東アジア競技大会

●平成５年５月10日～14日　●　中国・上海

54kg級

順位	氏名	国名	体重	スナッチ 1	スナッチ 2	スナッチ 3	クリーン&ジャーク 1	クリーン&ジャーク 2	クリーン&ジャーク 3	ベスト スナッチ	ベスト ジャーク	トータル
1	YANG. BIN	CHN	53.65	110.0	115.0	117.5	140.0	145.0	147.5×	117.5	145.5	262.5
2	KO. KWANG-KU	KOR	53.95	110.0	115.0	117.5	140.0	145.0	147.5×	117.5	145.0	262.5
3	KIM. MYONG SIK	PRK	53.75	107.5	112.5×	112.5	145.0	150.0×	152.5×	112.5	145.0	257.5
4	LIN. QI SHEING	CHN	52.55	110.0×	110.0×	110.0	140.0	152.5×	152.5×	110.0	140.0	250.0
5	渡辺　博	JPN	53.35	1.0.5	112.5	115.0×	130.0	135.0×	137.5×	112.5	130.0	242.5

59kg級

1	CHUN. BYUNG-KWAN	KOR	59.00	125.0	130.0	135.0AR	160.0	165.0×	165.0×	135.0AR	160.0	295.0AR
2	RO. HYON IL	PRK	58.90	120.0	125.5	127.5	155.0	160.0×	160.0×	127.5	155.0	282.5
3	池畑　大	JPN	58.70	117.5	122.5×	125.0×	150.0	155.0	157.5×	125.0	155.0	280.0
4	CHONG. GWAN HA	PRK	58.80	120.0	125.0	130.0×	152.5	157.5×	157.5×	125.0	125.0	277.5
5	LIAO. HSING CHOU	TPE	58.95	110.0×	115.0	120.0×	142.5	152.5×	152.5×	115.0	142.5	257.5
6	伊藤　和博	JPN	58.65	107.5	112.5	115.0	135.0	140.0	145.0	115.0	140.0	255.0

64kg級

1	ZHANG. YOU YI	CHN	63.75	132.5	137.5	140.0×	162.5	167.5	170.0×	137.5	167.5	305.0
2	KIM. UN. SONG	PRK	63.90	130.0	135.0	137.5	160.0	165.0	170.0×	137.5	165.0	302.5
3	LI. CHANG GUN	PRK	63.85	120.0	125.0	130.0×	160.0	170.0	172.5×	125.5	170.0	295.0
4	HWANG. EUI-YEOL	KOR	63.75	125.0	130.0	132.5×	160.0	162.5×	162.5×	130.0	162.5	292.5
5	YEN. SHUI CHEN	TPE	63.80	110.0×	110.0×	110.0×	140.0	147.5	152.5×	110.0	147.0	257.5
6	橘　典人	JPN	63.50	117.5×	117.5×	117.5×	(キ)	－	－	0	0	0

70kg級

1	WANG/YONG	CHN	69.85	135.0	140.0	142.5×	180.0	182.5	187.5×	140.0	182.5	322.5
2	KIM. HAK-BONG	KOR	69.65	135.0	140.0×	140.0×	180.0	187.5×	187.5×	135.0	180.0	315.5
3	IM. SANG HO	PRK	69.80	140.0×	140.0	145.0×	170.0	175.0	180.0×	140.0	175.0	315.5
4	GOMBODORJ. ENEBISH	MGL	67.85	135.0	140.0×	140.0×	160.0	165.0×	170.0×	135.0	165.0	300.0
5	掘越　典昭	JPN	69.5	130.0	135.0×	135.0×	165.0×	165.0	170.0	130.0	170.0	300.0
6	WU. TSAI FU	TPE	68.40	122.5×	122.5	130.0	152.5	160.0	165.0	130.0	160.0	290.0

76kg級

1	KIM. MYONG NAM	PKN	75.30	155.0	160.0AR	162.5×	190.0	195.0×	195.0AR	160.5AR	195.0AR	355.0AR
2	SHAN. BAO QUAN	CHN	75.90	142.5	147.5	150.0	185.0	192.5×	192.5	150.0	192.5	342.5
3	CHOI. BYUNG-CHAN	KOR	73.45	140.0	145.0	150.0	175.0	175.0	182.5	150.0	175.0	325.0
4	西澤　勝美	JPN	75.50	130.0×	135.0×	135.0	170.0	175.0	180.0×	130.0	175.0	305.0
5	DORJSUREN. BATTULGA	MGL	73.35	135.0×	135.0×	135.0×	(キ)	－	－	0	0	0

83kg級

1	CHON. CHOL HO	PRK	79.30	155.0×	155.0	160.0	195.0	100.0AR	205.0×	160.0	200.0AR	360.0AR
2	WANG. YUAN FENG	CHN	81.60	152.5×	152.5×	152.5	190.0	197.5	202.5×	152.5	197.5	350.0
3	PAK. CHANG GYU	PRK	76.50	135.0	140.0	145.0×	165.0×	165.0	170.0	140.0	170.0	310.0
4	BADARCH. CHULUUNPUREV	MGL	77.85	135.0	140.0	142.5×	155.0	165.0	170.0×	140.0	160.0	300.0
5	SU. MING TE	TPE	80.30	122.5	127.5	127.5×	160.0	167.5×	167.5×	122.5	167.5	287.5

91kg級

1	YEOM. DONG-CHUL	KOR	86.10	152.5×	152.5	155.0	190.0	192.5	195.0	155.0	195.0	350.0
2	CHUN. YONG-SUNG	KOR	90.75	150.0×	150.0	155.0×	190.0	197.5	202.5×	150.5	197.5	347.5
3	YUNG. CHOL	PRK	89.00	150.0	155.0×	155.0×	190.0	195.0	202.5×	155.0	195.0	345.0
4	稲垣　英二	JPN	89.65	130.0×	130.0	135.0	170.0	177.5×	177.5×	135.0	170.0	305.0
5	TSENHERJAV. HOSBAYAR	MGL	88.95	130.0×	130.0	137.5	160.0	165.0×	165.0	137.5	165.0	302.5
6	WANG. BAO FU	CHN	87.70	160.0	165.0	168.0×	187.5×	187.5×	187.5×	165.0	0	0

99kg級

1	HWANG. HEE-DONG	KOR	95.05	152.5×	152.5	157.5×	200.0	202.5	202.5×	152.5	202.5	355.0
2	LIU. NING	CHN	98.75	157.5×	157.5	160.0×	197.5×	197.5	202.5×	157.5	197.5	355.0
3	西本　宣充	JPN	96.45	155.0	160.0×	160.0×	195.0	200.0×	205.0×	155.0	195.0	350.0
4	LIAO. CHIN MING	TPE	96.70	130.0	140.0×	140.0×	150.0	170.0×	ｷ	130.0	150.0	280.0
5	LU/WEI QI	CHN	97.80	155.0	160.0×	160.0×	197.5×	197.5×	200.0×	155.0	0	0

108kg級

1	CHUNG. DAE-JIN	KOR	106.35	160.0	167.5×	167.5	210.0AR	215.0	215.0×	167.5	210.0AR	377.5AR
2	西川　智之	JPN	99.20	145.0	152.5	157.5×	180.0×	180.0	190.0	152.5	190.0	342.5
3	KUO. CHIN SHEN	TPE	102.45	135.0	140.0×	140.0×	167.5	172.5	175.0×	135.0	172.5	307.5
4	CHUN. SANG-SEOK	KOR	107.60	172.5	180.5×	180.5×	207.5	207.5×	210.0×	172.5	0	0

+108kg級

1	WEI. TIE HAN	CHN	143.50	160.0	170.0×	181.0×	202.5×	113.0AR	ｷ	160.0	222.5	382.5
2	富樫　嘉文	JPN	114.65	150.0	160.0	167.5×	185.0	200.0×	200.0×	160.0	185.0	345.0
3	TU. KUO HUA	TPE	144.65	110.0	125.0	130.0	130.0	155.0×	170.0×	130.0	155.0	285.0

第１９回　ジュニア世界選手権大会

第19回ジュニア選手権大会は、５月18日から23日までの６日間、チェコ共和国のヘブで開催された。日本からは役員６名と、４月に行なわれた日本ジュニア選手権大会にて、優秀な成績を収めた10名の選手が選考されたが、１名は怪我のため不参加となり９名の選手が参加した。

５月１日から浦和市で合宿に入り、コンディション調整を行ない、５月13日一路チェコに向って成田を出発した。途中でフランクフルトに１泊し、翌14日プラハからバスで移動しヘブに到着した。本大会は、新階級での初の世界大会であり、また旧ソ連の崩壊により各共和国からの出場となり、高レベル・高記録となった。

＜54kg級＞

競技は18日から始まり、初日は54kg級が行なわれ、昨年56kg級で体重差で優勝したブルガリアのMINCHEV SEVDALINはスナッチ122.5kgジャーク152.2kgトータル275kgの高記録を挙上し体重差で優勝し、３位以下に22.5kgの大差をつけた。

斎藤（日体大）は、スナッチで90kg、95kg、97.5kgと３本成功し、ジャークは、120kg、125kgを３回目に成功しトータル222.5の自己新記録で10位と健闘した。

佐々木（中大）は、スナッチで95kg１本で終ったが、ジャークは、115kg、120kg、122.5kgと３本成功し、トータル217.5kgの自己新記録で12位と健闘した。

＜59kg級＞

２日目は、59.64kg級が行なわれ、59kg級の優勝者は、カザフスタンのIUGAI OLEGがトータル280kgを挙上し、２位に10kgの大差をつけた。IUGAI OLEGは、昨年52kg級で出場しトータルで227.5kgであり、１年間で何と50kg以上記録を更新した。

岩佐（日体大）は、スナッチで97.5kg、102.5kg、105kgと３本成功し、ジャークでも、120kg、125kg、130kgと成功させ、大舞台で全試合を成功させトータル235kgの自己新記録で13位と健闘した。

＜64kg級＞

64kg級は、昨年60kg級で優勝したブルガリアのTZANOV ILIANと昨年60kgで３位だったトルコのYAKCI MUCHAITの戦いとなった。TZANOV ILIANはスナッチで135級を挙上し５kgリードした。ジャークでは、YAKCI MUCHAITに体重差で破れたものの165kgを挙上して、トータル300kgで優勝した。

宮路（大商大）は、得意のスナッチでメダルが期待されたが、１回目122.5kgの失敗で127.5kgで終り、メダルには１歩届かず４位となった。ジャークは、140kg、145kgと成功し３回目150kgに挑戦したが差しで失敗、しかし、大舞台で150kgに挑戦により、ジャークに自信をつけたと共に、トータル272.5kgの自己新記録で６位に入賞した。

＜70kg級＞

３日目は、70.76kg級が行なわれ、70kg級の優勝者は、中国のZHAN XUGANGがスナッチ140kg、145kgと成功し、ジャークでも、175kg・180kgを３回目に成功、スナッチ・ジャークともに１位、トータル325kgで優勝した。中国チームは、軽量級では上位を占めるが、今年は、64kg級まで出場者がなかった。

＜76kg級＞

このクラスは、ロシア、アルメニア、ブルガリア、中国の４選手で争われた。スナッチは、アルメニアのIGITIAN KARENが150kgを挙上し一歩リード、続いて145kgでブルガリア、中国の順になった。ジャークでは、ロシアのKOCHEJLOV NIKOLAJが、３回目192.5kgの逆転ジャークで、トータル332.5kgで優勝をさらった。

渡辺（日大）は、スナッチで１回目117.5kgを失敗、２回目に成功し３回目122.5kgを挙上した。ジャークは、１回目155kgを成功し、160kgに挑戦したが挙上できず、トータル277.5kgの自己ベスト記録で、13位の成績であった。

＜83kg級＞

４日目、83.91kg級が行なわれ、83kg級は、昨年82.5kg級で、ＣＩＳが１位・２位を独占、今年は、ロシアの、OSIPOV VIACHESLAVがトータル345kgで、１位・２位を独占した。

安井（明大）は、スナッチで、１回目125kgを失敗、２回目は成功したが３回目130kgは挙

上することができなかった。ジャークは、1回目162.5kgを差しで失敗し、2回目に成功、3回目170kgに挑戦したがクリーン時反則を取られ失敗、トータル287.5kgの17位ちま一歩の成績だった。

＜91kg級＞
このクラスは、2～4位までがトータル357.5kgで体重差となった。優勝したのはロシアのPETROV ALEXEJで、スナッチ170kg、175kg、180kgと3本成功させ、ジャークでも、210kg、220kgと成功、3回目225kgは失敗したものの、トータル400kgの高記録で、2位以下に42.5kgの大差をつけ優勝、また全階級を通しても最高重量を挙上した。

＜99kg級＞
5日目は、99kg級が行なわれ、1～4位までが旧ソ連で占めた。優勝は、アルメニアのVARDANIAN ARAでトータル380kg、2位は、ロシアのSHICHLIANNIKOV E.でトータル375kg、3位に同じくロシアのSMIRNOV DMITRIで、トータル365kg、4位にウクライナと続いた。

＜108kg級＞
最終日は、108・＋108kg級が行なわれ、108kgは、スナッチで、ウクライナのLUKJANCIKOV SERGEIが、175kgを挙上しリード、ジャークでは、ベラルーシのDOROSCHUK RUSLANが212.5を挙上し軽く逆転してトータル382.5kgで優勝した。
吉本（法大）は、スナッチ1回目145kgを失敗したが、2回目に成功、3回目も150kgを成功した。ジャークは、1回目190kgを成功し、2回目200kgに挑戦したが失敗し、3回目も失敗に終ったが、トータル340kgの自己新記録で7位と健闘した。
佐野（自衛隊）は、スナッチ1回目140kgを成功、2回目に150kgを失敗したが3回目に成功した。ジャークでは、180kgからスタートし、3回とも差しが決まらず失格となった。

＜＋108kg級＞
このクラスは、スナッチ165kgで1～4位、160kgで6～8位と5kg以内に8名と混戦となりジャークで207.5kgを挙上し、1位となったウズベキスタンのMANUSHE V ALEKSANDRがトータル372.5kgで優勝した。トータル9位までがジャークの順位で決まった。
青木（日大）は、スナッチ1回目130kgを後に流し失敗、2回目に成功、3回目135kgは失敗に終った。ジャークは、1回目170kg、2回目175kgと成功させ、3回目180kgに挑戦したが失敗に終り、トータル305kgの12位の成績であった。

大会前、浦和市で5月1日～12日までの間合宿に入り、トレーニングメニューはナショナルチームと同様のメニューを実し、若さ溢れる力と記録への挑戦意欲旺盛で、各選手自己新記録を挙上し、体調も良好な状態で日本を出発した。現地に入ってからの調整も順調にいっていた。しかし、ヘブでの生活が長くなればなるほど食事の違い等から、好体調もなかなか維持できなくなってきたが、各選手は、合宿時のトレーニングで得た自信を持ち試合に臨んだ。
試合では、9名出場し5名が自己記録、2名が自己タイ記録を挙上し各選手良く健闘した。また、この大会をかわきりに大きく成長して、一人でも多くの選手がナショナルチーム入りして、活躍してください。

今大会は、新階級での初の世界大会であり、また、旧ソ連の崩壊により各共和国からの参加となり、金（メダル）の数もばらつき、ロシア－3個（トータルの優勝）で一番多く、トルコ、ブルガリア、中国、カザフスタン、アルメニア、ベラルーシ、ウズベキスタンの7カ国で各1個ずつ分けた。チーム得点は、1位－ロシア、2位－ブルガリア、3位－ウクライナの順となり、最優秀選手は、54kg級、トータル275kgの高記録で優勝したトルコのMUTLU HALIL選手が受賞した。また、91kg級もトータル400kgの高記録を挙上し、各階級も体重差、2.5kg差の内容の濃い大会であった。

5月24日朝0550帰国する時の
バスをホテルで待つ。

ホテル前でトルコチームと一緒に。

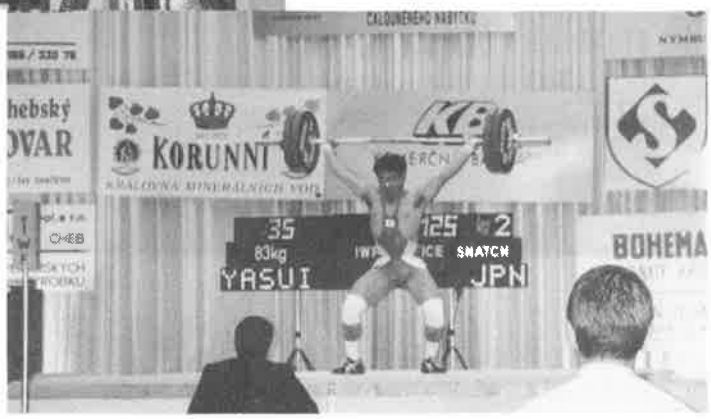
54kg級斎藤スナッチ97.5kg
の自己新を挙上。

54kg級佐々木ジャーク122.5kg
の自己新を挙上。

59kg級岩佐スナッチ
3回目105kgに挑戦。

64kg級宮路ジャークの
ウォーミングアップ。

76kg級渡辺ジャーク1回目
155kgのクリーン。



83kg級安井スナッチ125kg
ひっしにコントロールしている。

108kg級吉本ジャーク
２回目200kgに挑戦する。

108kg級佐野スナッチ
３回目150kg成功。

+108kg級青木ジャーク175kg
成功。

第19回ジュニア世界選手権大会

●平成５年15日～24日　●チェコ共和国

54kg級

順位	氏名	国名	体重	スナッチ 1	スナッチ 2	スナッチ 3	クリーン&ジャーク 1	クリーン&ジャーク 2	クリーン&ジャーク 3	ベスト スナッチ	ベスト ジャーク	トータル
1	MUTLU HALIL	TUR	53.60							122.5	152.5	27505
2	MINCHEV SEVDALIN	BUL	53.90							122.5	152.5	275.0
3	HAM JUNG-HOON	KOR	53.55							115.0	137.5	252.5
4	ROUSSEV HAYDEN	BUL	53.65							112.5	140.0	252.5
5	ABDIEV EMIL	KGZ	53.70							107.5	130.0	237.5
6	WANG SHIN-YUAN	TPE	53.55							102.5	130.0	232.5
7	BONNEL ERIC	FRA	53.50							102.5	127.5	230.0
8	SULEYMANOV ELKHAN	AZE	53.75							105.0	125.0	230.0
9	LANDESZMAN TIBOR	HUN	53.85							102.5	125.0	227.5
10	斎藤　和巳	JPN	53.60							97.5	125.0	22
12	佐々木　徹	JPN	53.55							95.0	122.5	217.5

59kg級

1	IUGAI OLEG	KGZ	58.50							127.5	152.5	28005
2	PETROV PETAR	BUL	58.55							122.5	147.5	270.0
3	CHO JOON HO	KOR	58.60							11250	155.0	267.5
4		HUN	58.45							120.0	145.0	265.0
5	KARAPETIAN GRATCH	ARM	58.65							115.0	145.0	260.0
6		CMR	58.85							112.5	147.5	260.0
7	KOH SUNG IK	KOR	58.10							107.5	150.0	257.5
8	LARIN DMITRIJ	RUS	58.90							117.5	140.0	257.5
9	CIHAREAN MARIUS	ROM	58.20							117.5	137.5	255.0
10	RIGAYLO SERGEL	UKR	58.55							112.5	142.5	255.0
11	LOMAKIN DMITRIJ	KZK	58.90							115.0	135.0	250.0
13	岩佐　正広	JPN	58.65							015.0	130.0	235.0

64kg級

1	TZANCOV ILIAN	BUL	63.75							135.0	165.0	300.0
2	YAKGI MUCHAIT	TUR	63.50							130.0	165.0	295.0
3	KAZARIAN ASHOT	ARM	63.60							125.0	160.0	285.0
4	EM OLEG	KZK	63.85							130.0	155.0	285.0
5	TRUCHIN MICHAIL	RUS	63.45							125.0	152.5	277.5
6	宮路　由久	JPN	63.30							1275	145.0	272.5
7	TURDER MARINEL	ROM	63.25							122.5	147.5	270.0
8	MOSIN NIKOLAI	KZK	63.45							120.0	140.0	260.0
9	AMADOU MOUSSA	CMR	63.90							110.0	147.5	257.5
10	GROULX SEEASTIEN	CAN	63.25							110.0	145.0	255.0

70kg級

1	ZHAN XUGANG	CHN	69.85							145.0	180.0	325.5
2	VANEV ZLATAN	BUL	69.70							142.5	177.5	320.0
3	FILIMONOV SERGEI	KZK	69.50							140.0	175.0	315.0
4	CHERNOBORODON	RUS	69.80							142.5	170.0	312.5
5	PARK HUN SEO	RUS	69.10							130.0	175.0	305.0
6	LANKOV IANKO	BUL	69.35							140.0	165.0	305.0
7	DEMEURE FRANCOS	BEL	69.00							130.0	162.5	292.5
8	PUYMAN OLEG	BLS	69.35							132.5	160.0	292.5
9	COLLINOT FRANCE	FRA	69.65							130.0	160.0	290.0
10	RYMKOULOV NOURLAN	KZK	69.05							132.5	155.0	287.5

76kg級

1	KOCHEJLOV NIKOLAJ	RUS	74.00			140.0	192.5	332.5
2	IGITIAN KAREN	ARM	75.50			150.0	180.0	330.0
3	IVANOV RRASIMIR	BUL	74.95			145.0	180.0	325.0
4	JI XING-YNAN	CHN	75.20			145.0	180.0	325.0
5	ILIE RAZVAN	ROM	74.75			145.0	165.0	310.0
6	FATU OVIDIU	ROM	74.85			132.5	170.0	302.5
7	DOROSCHENKO IGOR	UKR	73.90			135.0	160.0	295.0
8	USMANOV GATRAT	KZK	74.45			130.0	160.0	290.0
9	VIETZ ROBERT	GER	75.10			130.0	157.5	287.5
10	NTEWE ALAIN	CMR	75.80			122.5	165.0	287.5
13	渡辺　直人	JPN	75.20			122.5	155.0	277.5

83kg級

1	OSIPOV VIACHESLAV	RUS	81.35			160.0	187.5	347.5
2	KANTKIN VIACHESLAV	RUS	81.60			155.0	190.0	345.0
3	CONJUHARI IURIE	MLD	81.65			152.5	190.0	342.5
4	CARUSO OLIVER	GER	80.75			155.0	185.0	340.0
5	GEORGIEV GEORGI	BUL	82.20			155.0	180.0	335.0
6	KRAVETS ANDREY	UKR	81.30			157.5	175.0	332.5
7	ZELENIY OLEXY	UKR	81.85			155.0	175.0	330.0
8	CHUYKOV ALEKSEI	KZK	79.55			150.0	170.0	320.0
9	MATAM ALPHONSE	CMR	82.35			14 0	1 .0	320.0
10	VARDANIAN SERGEI	ARM	82.35			140.0	180.0	320.0
17	安井　　盾	JPN	82.10			125.0	162.5	287.5

91kg級

1	PETROV ALEXEJ	RUS	88.85			180.0	222.0	400.0
2	KEHAYOV MARIN	BUL	88.45			160.0	197.5	357.5
3	GOTFRID DENYS	UKR	88.80			155.0	202.5	357.5
4	KABINKE MARIO	GER	90.			160.0	197.5	357.5
5	PYANKOV VIKTOR	UKR	86.55			157.5	190.0	347.5
6	JEDRA MARIUSZ	POL	89.55			147.5	187.5	335.0
7	CHELMOWSKI IRENEUS	POL	90.80			145.0	190.0	335.0
8	HARALAMBIE GHEORG	ROM	90.00			147.5	185.0	332.5
9	MAGER FEDOR	BLS	90.30			155.0	177.5	332.5
10	CARRIO LORENZO	ESP	88.50			140.0	180.0	320.0

99kg級

1	VARDANIAN ARA	ARM	94.05			170.0	210.0	380.0
2	CHICHLIANNIKOV	RUS	94.			165.0	210.0	375.0
3	SMIRNOV DMITRI	RUS	96.00			165.0	200.0	365.0
4	BEDETSKY GENNADIY	UKR	93.30			165.0	197.5	362.5
5	RYBKO IGOR	BLS	98.15			160.0	195.0	355.0
6	HOU JANOGIAN	CHN	98.40			155.0	185.0	340.0
7	KOLODZIEJ ARTUR	POL	97.10			155.0	185.0	335.0
8	OLKHOVSKI DMITRI	KZK	98.35			150.0	170.0	320.0
9	SLRETLPWOTZKI	POL	91.05			140.0	172.5	312.5
10	SCHARDT MARGO	GER	91.55			135.0	175.0	310.0

108kg級

1	DOROSCHUK RUSLAN	BLS	107.80			170.0	212.5	382.5
2	LUKJANGIKOV SERGEI	UKR	105.30			175.0	197.5	372.5
3	NAJDEK PAVEL	POL	106.30			165.0	205.0	370.0
4	VOROBJEV TIMOFEI	UKR	103.85			157.5	195.0	352.5
5	SAMBERG DIRK	GER	107.45			157.5	190.0	347.5
6	JAKIN GENADIJ	RUS	102.20			152.5	190.0	342.5
7	吉本　久也	JPN	107.00			150.0	190.0	340.0
8	EIZLINGER KLAUS	AUT	101.20			142.5	180.0	322.5
9	TOTH FERENC	HUN	107.10			145.0	175.0	320.0
10	SCHIANO PIETRO	USA	103.80			137.5	170.0	307.5
	佐野　　衛	JPN	103.80			150.0	0	0

+108kg級

1	MANUSHEV ALEKSANDR	UZB	118.70			165.0	207.5	372.5
2	CHTCERBATYKH V.	LAT	108.40			165.0	205.0	370.0
3	DANIELIAN ACHOT	ARM	123.55			162.5	205.0	367.0
4	POPOV VIACHESLAV	UKR	108.35			165.0	200.0	365.0
5	PARK HOON	KOR	122.40			160.0	200.0	360.0
6	SOBOTKA VETR	CZE	130.25			165.0	195.0	360.0
7	CHIKOV MARIN	BUL	108.25			160.0	192.5	352.5
8	KOWALCZYK	POL	111.85			160.0	190.0	350.0
9	GUGLU SEZGIN	TUR	125.00			157.5	185.0	342.5
10	FAYE JASHA	USA	115.10			155.0	175.0	330.0
12	青木　延明	JPN	115.05			130.0	175.0	305.0

第７回全国女子選手権大会

＜46kg級＞
44、48kg級の両階級に日本記録を持つ、斎藤（日体大）は、スナッチ67.5kg、ジャーク85kg、トータル152.5kgと完璧なリフティングで２位の今に22.5kgの大差で優勝し、世界のメダルに向ってスタートした。新悦の今岡（大阪産大高校）にはジャーク75kgに２回失敗し３位にとどまった。次回の奮起に期待したい。

＜50kg級＞
60kgより下りた安田（日体大）と48kg級から上がってきた加藤（埼玉短大・教）の初対決となった。両者スナッチで65kgと並び体重差で安田一歩リードしジャークの勝負となり、２回目85kgを軽々挙げた安田が80kgで終った加藤を引き離しトータル150kgで初優勝した。３位は高市（尼崎小田高校）がトータル130kgで続いた。

＜54kg級＞
14名が出場の混戦試合の中で52kg日本記録保持者、植村（京都府体育協会）が社会人となり練習不十分な状態にもかかわらずスナッチ70kg、ジャーク92.5kg、トータル162.5kgと安定した試技で、２位の諏訪（鎮西高校）に12.5kg引き離し優勝した。新悦の諏訪はジャーク90kgで失敗したもののクリーンは抜群であり、今後の成長が楽しみである。３位はジャークで健闘した佐藤（大阪体大）が長谷川（慶応大・職）を抑えて勝ち取った。

＜59kg級＞
56kg級のチャンピオン阿部（日体大）がスナッチ80kg、ジャーク100kg、の好記録で２位の石戸（埼玉短大）に27.5kgの大差で楽々優勝し、実力差を見せつけた。３位は全国高校選抜最優秀選手となった仲嘉（沖縄尚学高校）がスナッチ65kg、ジャーク90kgと大物の片鱗を見せ、上位に食い込んできた。新人の活躍を期待したい。

＜64kg級＞
ここ一年で急成長した高橋（埼玉短大）が、スナッチでは80kgに終ったが、ジャークで、１回目150kg、２回目110kg、３回目112.kgとパーフェクトでトータル192.5kgと好記録で２位安宅（日体大）を抑え、初優勝に輝いた。３位は友松（埼玉短大）167.5kgが続いた。

＜70、76、83、+83kg級＞
67.5kgの覇者、長谷場（埼玉栄高校・教）がスナッチ、ジャークとも成功率が悪かったが、トータル195kgで優勝し、連勝記録を更新した。76kg級では翁長（日体大）がスナッチ82.5kg、ジャーク100kg、トータル182.5kgと安定感を増して優勝を決めた。重量級選手として今後の活躍が楽しみである。83kg級は新人、新井（埼玉栄高校）がスナッチ77.5kg、ジャーク90kg、トータル175kgと好記録し、翁長同様、重量級での活躍がしたい。

全国で最初のウェイトリフティング体育館倉敷に誕生。

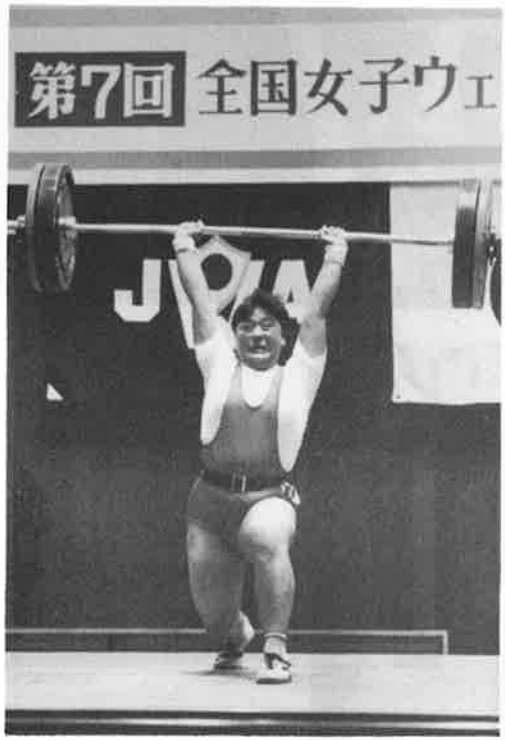
46級優勝斎藤さと美（日体大）２位今（埼玉短）３位今岡（大阪産大高）。

50kg級優勝安田直子（日体大）のジャーク85kg。

70kg級優勝長谷場ジャーク115kg。

76kg級優勝翁長真由美
（日体大）スナッチ82.5kg。

83kg級優勝新井深雪（埼玉栄）
ジャーク95kg°



+83kg級初優勝

64kg級優勝 高橋百合子
（埼玉短）はジャーク110kg成功

第７回全国女子ウエイトリフティング選手権大会

● 平成５年５月29日～30日　● 岡山県倉敷市ウエイトリフティング場

46kg級

順位	氏名	県名	所属	体重	スナッチ 1	スナッチ 2	スナッチ 3	クリーン&ジャーク 1	クリーン&ジャーク 2	クリーン&ジャーク 3	ベスト スナッチ	ベスト ジャーク	トータル
1	斎藤さと美	京都	日体大	45.85	62.5	65.0	67.5	80.0	85.0×	85.0	67.5	85.0	152.5
2	今　真紀子	埼玉	埼玉短大	44.60	52.5	55.0×	55.0	70.0	72.5	75.0	55.0	75.0	130.0
3	今岡　益美	大阪	大産大高	44.75	52.5	55.0	57.5×	70.0	75.0×	75.0×	55.0	70.0	125.0
4	園部　和枝	山形	日体大	44.70	50.0	52.5	55.0	62.5	65.0	67.5×	55.0	65.0	120.0
5	長谷川陽子	兵庫	三木東高	45.40	45.0	47.5	50.0×	65.0	67.5×	67.5	47.5	67.5	115.0

50kg級

1	安田　直子	京都	日体大	49.40	65.0	67.5×	67.5×	82.5	85.0	87.5×	65.0	85.0	150.0
2	加藤　智子	埼玉	埼短大教	49.55	65.0	67.5×	67.5×	80.0×	80.0	85.0×	65.0	80.0	145.0
3	高市　卓子	兵庫	尼小田高	49.05	55.0	60.0	62.5	67.5×	67.5	72.5×	62.5	67.5	130.0
4	岩佐早百合	山梨	岩永玩具	49.40	47.5	50.0	52.5×	65.0	67.5	70.0×	50.0	67.5	117.5
5	佐藤久美子	京都	立命館大	48.50	45.0	47.5	500.0×	57.5	60.0×	60.0×	47.5	57.5	105.0

54kg級

1	植村ひろみ	京都	財)京体協	52.95	70.0	75.0×	75.0×	87.5	92.5	97.5×	70.0	92.5	162.5
2	諏訪　治子	熊本	鎮西高校	53.35	60.0	65.0	67.5×	80.0	85.0	90.0×	65.0	85.0	150.0
3	佐藤　寛子	兵庫	大阪体大	53.10	60.0×	60.0	62.5	75.0	77.5	80.0	62.5	80.0	142.5
4	長谷川倫子	神奈川	慶応大職	53.50	57.5	60.0	62.5	75.0	77.0	80.0×	62.5	77.5	140.0
5	佐々木香奈子	埼玉	埼玉栄事	53.60	55.0	60.0	62.5×	72.5	77.5×	77.5	60.0	77.5	137.5
6	館野　祐子	栃木	埼玉短大	53.40	57.5×	57.5	60.0	75.0×	75.0	80.0×	60.0	75.0	135.0

59kg級

1	阿部　真美	埼玉	日体大	57.20	75.0	80.0	82.5×	97.5	100.0	102.5×	80.0	100.0	180.0
2	石戸　恵子	埼玉	埼玉短大	58.85	62.5	67.5	70.0×	85.0	90.0	95.0×	67.5	90.0	157.5
3	仲嘉　真理	沖縄	沖尚学高	58.15	60.0	65.0	70.0×	85.0	90.0	92.5×	65.0	90.0	155.0
4	塩屋　雅恵	埼玉	埼玉栄高	57.90	60.0	65.0×	65.0×	77.5	82.5	85.0×	60.0	82.5	142.5
5	出世ゆかり	兵庫	尼小田高	57.20	57.5	62.5	65.0×	70.0	72.5×	72.5	62.5	72.5	135.0
6	杉本　泰美	長野	篠ノ井高	57.40	55.0	57.5×	57.5×	70.0	72.5	75.0×	55.0	72.5	127.5

64kg級

1	高橋百合子	埼玉	埼玉短大	62.70	80.0	85.0×	85.0×	105.0	110.0	112.5	80.0	112.5	192.5
2	安宅あかね	京都	日体大	63.50	67.5	70.0	72.5	95.0	97.5	100.0	72.5	97.5	170.0
3	友松　めぐ	埼玉	埼玉短大	62.35	67.5	72.5	75.0×	90.0	95.0	97.5×	72.5	95.0	167.5
4	西山　　陽	大阪	日体大	53.55	60.0	60.0	62.5	80.0	82.5	85.0	62.5	85.0	147.5
5	佐藤　志穂	山形	羽黒高校	61.30	62.5×	62.5×	62.5	75.0	80.0×	80.0×	62.5	75.0	137.5

70kg級

1	長谷場久美	埼玉	埼栄高教	68.75	85.0	90.0×	90.0×	110.0	115.0×	115.0×	85.0	110.0	195.0
2	倉内　留美	東京	日体大職	68.35	65.0×	65.0	70.0×	85.0×	85.0×	85.0	65.0	85.0	150.0

76kg級

1	嶋長真由美	沖縄	日体大	70.25	80.0	82.5×	82.5	100.0×	100.0	102.5×	82.5	100.0	182.5

83kg級

1	新井　深雪	埼　玉	埼玉栄高	76.85	70.0	75.0	77.5	92.5	97.5	100.0×	77.5	97.5	175.0
2	原田　優子	北海道	当別高校	77.45	60.0	65.0×	65.0	90.0	95.0	97.5	65.0	97.5	162.0

+83kg級

1	山下恵美子	埼　玉	関東ト運	93.65	65.0	67.5×	67.5×	85.0	90.0	92.5×	65.0	90.0	155.0

倉敷市にウエイトリフティング専用施設が完成

全国で初めてウエイトリフティング専用の体育館が完成した。この施設は全国のウエイトリフティング関係者が注目していたが、待ちに待ったその日が来た。

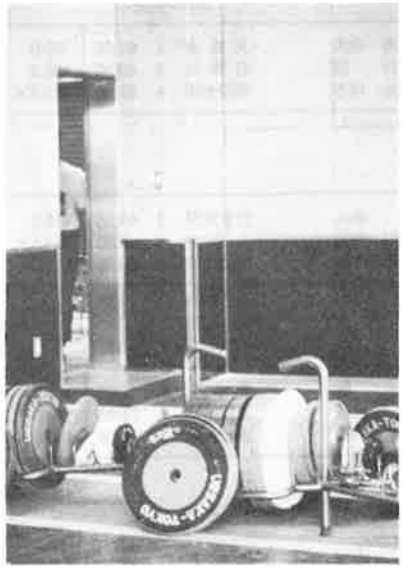
この体育館は、倉敷市教育委員会が総事業費約２億円で鉄筋コンクリート１部鉄骨造り２階建て造りになっており、１階には電光掲示板を備えた競技用特設リング(競技用舞台)が設置され、２階は選手達が休息できるフロアーになっており収容人数は100名だそうである。

式典では、渡辺倉敷市長より「倉敷市は、ロサンゼルス、ソウル、バルセロナ五輪で活躍した岩田洋介（旧性：村木）選手を始め多くの優秀なリフターを輩出しているが、この施設が日本の競技力向上の一助として、また生涯スポーツの殿堂として活用されてほしい」と力強いあいさつされました。その後三宅俊次岡山県協会理事長の解説で岩田洋介選手の模範演技が披露された。

また、今回は落成を記念して第７回全国女子選手権大会が開催され、46kg級の斎藤さと美（日体大)、64kg級の高橋百合子(埼玉短大)ら好記録が続出して会場は一段と盛り上がり、落成開館式に花を添えることが出来ました。

体育館内にはウエイトリフティングの舞台が組まれている。

体育館の正面入口



ウオームアップ場は４～６ケ所でトレーニングが出来る広さのスペースがある。

第39回全日本学生選手権大会・個人戦

● 平成5年6月18日～20日 ● 大阪商業大学体育館

54kg級

順位	氏名	所属	学年	体重	スナッチ 1	スナッチ 2	スナッチ 3	クリーン&ジャーク 1	クリーン&ジャーク 2	クリーン&ジャーク 3	ベスト スナッチ	ベスト ジャーク	トータル
1	納富 俊行	日体大	4	53.40	92.5	97.5×	97.5×	125.0	130.0	132.5×	92.5	130.0	222.5
2	秋田 太郎	早稲田大	4	53.95	95.0	100.0×	100.0×	122.5	×	130.0×	95.0	122.5	217.5
3	打田 政人	中央大学	2	53.10	90.0	95.0	100/0×	115.0×	115.0	120.0×	95.0	115.0	210.0

59kg級

1	宮城 篤	日体大	3	58.35	92.5	100.0×	100.0×	132.5	140.0	142.5×	92.5	140.0	232.5
2	佐々木 徹	中央大学	2	58.25	105.0×	105.0	110.0×	120.0	125.0	130.0×	105.0	125.0	230.0
3	岩佐 正広	関西大学	2	59.00	95.0	100.0×	100.0	127.5	130.0	132.5×	100.0	130.0	230.0

64kg級

1	宮路 由久	大商大	2	62.65	120.0	125.0×	125.0	140.0	145.0×	145.0	125.0	145.0	270.0
2	上村 琢	日体大	3	63.20	105.0	110.0	112.5	-140.0	147.5×	147.5×	112.5	140.0	252.5
3	小松 博志	明治大学	4	62.80	110.0×	110.0	115.0×	140.0	147.5×	150.0×	110.0	140.0	250.0

70kg級

1	橋 典人	日本大学	3	64.05	115.0	120.0×	120.0×	150.0	155.0	160.0×	115.0	155.0	270.0
2	西川 良司	大商大	4	68.80	112.5×	112.5×	112.5	142.5	147.5	150.0×	112.5	147.5	260.0
3	村岡 勝	明治大学	3	68.85	115.0	120.0×	120.0×	140.0	145.0	152.5×	115.0	145.0	260.0

76kg級

1	丸木 馨	日体大	4	74.00	125.0	130.0	135.0	145.0	150.0×	150.0	135.0	150.0	285.0
2	植松 貴憲	九共立大	3	75.35	110.0	117.5×	117.5	140.0	150.0	155.0×	117.5	150.0	267.5
3	照屋 智泰	法政大学	3	76.00	110.0	115.0	117.5×	150.0×	150.0	152.0×	115.0	150.0	260.0

83kg級

1	周 延濤	拓殖大	3	92.35	132.5	137.5	(キ)	160.0	(キ)	ー	137.5	160.0	297.5
2	森脇 一博	法政大学	4	77.60	120.0×	120.0	125.0	160.0×	160.0	165.0×	125.0	160.0	285.0
3	松原 誠	福岡大学	4	82.60	120.0	125.0×	125.0×	160.0×	160.0	167.5×	120.0	160.0	280.0

91kg級

1	村田 和謙	明治大学	4	83.35	130.0	135.0	140.0	152.5	157.5×	157.5	140.0	157.5	297.5
2	金城 靖	明治大学	3	88.55	127.5	132.5	137.5×	160.0	167.5×	167.5	132.5	160.0	292.5
3	伊藤 隆行	中京大	4	89.60	120.0	125.0×	125.0	160.0	165.0	170.0×	125.0	165.0	290.0

99kg級

1	高槻 直	法政大学	4	95.95	125.0×	125.0	130.0	165.0×	165.0	167.5	130.0	167.5	297.5
2	小黒 直樹	中央大学	4	93.95	120.0×	125.0	130.0	160.0	165.0	167.0×	130.0	165.0	295.0
3	井本 勝	佛教大学	4	97.75	130.0×	130.0	135.0×	155.0	160.0	165.0×	130.0	160.0	290.0

108kg級

順位	氏名	県名	所属	学年	体重	スナッチ 1	スナッチ 2	スナッチ 3	クリーン&ジャーク 1	クリーン&ジャーク 2	クリーン&ジャーク 3	ベスト スナッチ	ベスト ジャーク	トータル
1	若杉 孝一		法政大学	4	99.10	135.0	140.0×	140.0×	170.0	(キ)	———	135.0	170.0	305.0
2	松田 直哉		明治大学	4	102.25	130.0	130.0	140.0	162.5×	162.5	167.5×	140.0	162.5	302.5
3	大鳴 学		中央大学	3	101.35	125.0	132.5×	135.0×	160.0	167.5×	167.5×	125.0	160.0	285.5

+108kg級

1	吉本 久也		法政大学	2	108.45	140.0	147.5	152.5	180.0	190.0	200.0×	152.5	190.0	342.5
2	陳 彬		拓殖大学	4	119.10	142.5	150.0	155.0×	175.0×	170.0	185.0	150.0	185.0	335.0
3	石井 伸幸		日体大	2	108.45	115.0×	115.0×	115.0	145.0	150.0×	150.0×	115.0	145.0	260.0

第５回全日本女子学生選手権大会

● 平成５年６月18日　● 大阪商業大学体育館

46kg級

順位	氏名	所属	学年	体重	スナッチ 1	スナッチ 2	スナッチ 3	クリーン&ジャーク 1	クリーン&ジャーク 2	クリーン&ジャーク 3	ベスト スナッチ	ベスト ジャーク	トータル
1	今　真紀子	埼玉短大	2	44.65	52.5	55.0	57.5×	70.0	72.5	75.0×	55.0	72.5	127.5
2	園部　和枝	日体大	2	44.00	52.5	55.0×	55.0×	65.0	67.5×	67.5×	52.5	65.0	117.5

50kg級

順位	氏名	所属	学年	体重	スナッチ 1	スナッチ 2	スナッチ 3	クリーン&ジャーク 1	クリーン&ジャーク 2	クリーン&ジャーク 3	ベスト スナッチ	ベスト ジャーク	トータル
1	斎藤さと美	日体大	2	48.75	62.5	65.0	67.5	80.0	85.0	87.5×	67.5	85.0	152.5
2	佐藤久美子	立命館大	1	47.55	42.5	45.0	47.5×	55.0	57.5	60.0×	45.0	57.5	102.5

54kg級

順位	氏名	所属	学年	体重	スナッチ 1	スナッチ 2	スナッチ 3	クリーン&ジャーク 1	クリーン&ジャーク 2	クリーン&ジャーク 3	ベスト スナッチ	ベスト ジャーク	トータル
1	館野　祐子	埼玉短大	1	52.80	57.5	60.0	62.5×	75.0	77.5	80.0	60.0	80.0	140.0
2	粂田　直美	日体大	2	53.65	57.5	60.0	62.5×	70.0×	70.0×	70.0	60.0	70.0	130.0
3	東條　和恵	立命館大	2	53.20	52.5×	52.5	57.5×	62.5	65.0	67.5×	52.5	65.0	117.5

59kg級

1	石戸　恵子	埼玉短大	1	58.95	62.5	67.5	70.0	87.5	92.5	95.0×	70.0	92.5	162.5

64kg級

1	友松　めぐ	埼玉短大	1	63.10	67.5	72.5	75.0×	90.0	95.0	97.5	72.5	97.5	170.0
2	西山　陽	日体大	1	63.95	60.0×	60.0×	60.0	80.0	85.0	87.5	60.0	87.5	147.5

70kg級

1	高橋百合子	埼玉短大	2	64.25	80.0×	80.0×	80.0	100.0	105.0	110.0	80.0	110.0	190.0
2	小堀　美幸	早稲田大	1	67.95	60.0×	60.0×	60.0	75.5	80.0×	80.0×	60.0	75.0	135.0

1993ジャパン インターナショナル フレンドシップ トーナメント

6月26、27日の2日間にわたり、'93 ジャパン・インターナショナル・フレンドシップ・トーナメントが湯の町・山の町、群馬県・水上観光会館にて行なわれた。昨年度まで行なわれていた日中友好大会を本年度より一つにまとめることとなり、このトーナメントは三ケ国によって行なわれる第1回目の記念すべきトーナメントとなった。

参加した選手の顔ぶれを見てみると、日本・韓国はほぼすべてがナショナルチームのメンバ・ーと言えようが、中国の選手は国内の一部の省の代表メンバーであり、ナショナルチームのメンバーは数人含まれる程度であった。

＜男子・54kg級＞

日本から渡辺博・小野寺浩亀が、中国からは1993年3月に行なわれた中国の国内選手権で54kg級の10位であった（中国選手の資料はすべて"Asian Weightlifting"1993年3月号による）Bi Zhongxiangが出場した。渡辺はヌナッチこそ110kgをとったものの、ジャークは差しが非常に不安定で、125kg1本がやっとであった。Biはスナッチ3本成功し115kg、ジャークは137.5kgでトータル252.5kgと日本人選手に大きく差をつけた。

＜男子・59kg級＞

日本から佐久間勝彦、韓国からCho Joon-Ho、中国からは54kg級国内2位のYuan Jianfengが出場した。スナッチで2本目までで3人とも115kgに並び、接戦であったが3本目でChoが117.5kgに成功し一歩リードした。ジャークでは佐久間が3本成功し147.5kgと健闘したが、Choは3本目で150kgに成功し、佐久間を逆転した。

＜男子・64kg級＞

バルセロナオリンピック56kg級金メダリスト、韓国のChun Byung-Kwanの登場である。Chunはスナッチ1本目127.5kg、2本目135kgに難なく成功した後、3本目で中国のYin Weiquanがマークしている140kgのアジア記録（1993年6月22日現在）を500g上回る140.5kgに挑戦するが、前に落し残念ながら失敗。ジャークでは池畑が2度クリーンに失敗した160kgからスタート、3本目で167.5kgに成功するなど、その強さを大きく見せつけた。

＜男子・70kg級＞

韓国からKim Hak-Bong、中国から64kg級国内1位のYin Weiquanが出場した。Kimはスナッチで135.5kg、ジャーク180.5kgの韓国新記録に成功し、トータル315kgをマークした。Yinは3月の国内選手権64kg級で、スナッチ140kg、ジャーク172.5kgに成功していたのだが、今回は6本成功しているもののスナッチ120kg、ジャーク140kgと、本来の力を出していなかったようである。

＜男子・76kg級＞

韓国からChoi Byung^Chan、中国からはQuan Quyong、Li Jinheが出場した。平成3年の第23回アジア選手権代表だったChoiはスナッチで140kgに成功するがジャークでは175kgを差すことができず失格した。Quanはスナッチ1本目で140kgをとったものの、受けが非常にもろく2･3本目で145kgを十分に引いていながらも失敗した。ジャークでは、スナッチでケガでもしたのか、120kgでスタートし、1本で棄権した。Choiと同じく平成3年にアジア選手権で日本にきたことのあるLiはトータル322.5kgをマークした。

＜男子・83kg級＞

日本から西澤勝美が、韓国からかつて90kg級でアジア選手権優勝を果たしたことのあるYeom Dong-Chulが、Lu Ruqiと、Xu Ganが出場した。Yeomはスナッチ成功1本ながらも150.5kgの韓国新記録に成功、ジャークは3本目で190kgに成功し、トータル340kgをマークした。中国国内3位ながらLuハスナッチ150kg、ジャーク187.5kgとYeomにトータル2.5kg差まで迫った。西澤は5本成功ながらトータル312.5kgと、韓国・中国の選手に大きく差をつけられた。

＜男子・91kg級＞

100kg級でアジア選手権チャンピオンの経験のある、また60kg級バルセロナオリンピック4位の期mByung-Chanはジャーク1本目に195kgを成功した後、2･3本目でアジア新記録の203.5kgを狙うが、残念ながら失敗した。しかしトークで350kgをマークし、稲垣英二に40kgの大差をつけた。

＜男子・99kg級＞

日本期待の西本宣充、その西本にかつてア

ジア選手権で勝ったことのある韓国のHwang Hee-Dongの対決となった。スナッチは出場した4人が155kgで並ぶ中、西本だけが160kgのアジアタイ記録に成功し、一歩のリードとなった。ジャークでは西本、Hwangともにスタートで200kgに成功し、2本目で試技順の若い西本が205kgのアジア新記録をあっさりとクリア、続いてHwangも205.5kgに成功し西本を抜き返した。さらに西本は3本目で207.5kgに成功し、ジャークでのアジア新記録を伸ばすとともにトータルでのアジア新記録も達成した。Hwangは3本目、一気に212.5kgに上げ、トータルでの逆転を狙ったが差しで非常に惜しい失敗となり西本に破れる結果となった。

＜男子・108kg級＞

韓国のChun Dee-Jinのみの出場であったが、Chunはジャークで自らの持つ210kgのアジア記録を500kg上回る210.5kgに成功と活躍し。

＜男子・＋108kg級＞

韓国にPark Hoonがトータル360kgで青木に45kgの差をつけた。

＜女子・46kg級＞

中国のZhang Yanpingは国内5位の選手であるが、トータル160kgで斎藤さと美に10kgの差をつけた。結果的には10kgの差ではあったが、Zhangはスナッチで65、70kgと成功した後、失敗はしたものの一気に77.5kgを狙うなど、隠れた強さをうかがわせた。

＜女子・50kg級＞

韓国のChoi Myung-Shiksがトータル167.5kgをマークし、安田直子にトータル15kgの差をつけた。

＜女子・54kg級＞

日本の植村ひろみ、韓国のSing Young-JuとOh Sook-Kyung、中国のZhou Jingweiによる大接戦となった。スナッチでは韓国の2人が72.5kgで、植村とZhouが75kgに成功し、リードした。ジャークでは植村が92.5kgスタートし、2本目で95kgに成功するが3本目で100kgを失敗する。韓国の2人は90kgからスタートし、ともに3本目で95kgに成功する。Zhouは95kgからスタート、2･3本目で勝負をつけるべく100kgを狙うが失敗し、結局植村が体重差でZhouをおさえ、女子の日本人選手で唯一の1位となった。

＜女子・59kg級＞

阿部真美はスナッチ2本成功で80kg、ジャークはリズムよく3本成功して100kg、トータル180kgと健闘した。中国国内4位のSuanhongは体重が54.60kgと軽いながらもトータル190kgを記録した。

＜女子・64kg級＞

中国のHuang Yingは5本成功でトータル197.5kg軽いながらもトータル197.5kgを記録した。日本の高橋百合子は、スナッチ1本で77.5kgにとどまったのがひびき、ジャークで110kgに成功したものの体重差で韓国のChou Eun-Jaに敗れた。

＜女子・70kg級＞

中国のXu Chunxiaがスナッチ90kg、ジャーク125kgで圧勝した。Xuはスナッチでは1本目の90kgを中ハイでとり、ジャークでは1本目112.5kgをハイクリーンアンドジャークで決め、しかも2本目にいきなり125kg、失敗はしたものの3本目には132.5kgを狙うなど、そのスケールの大きさに補助役で来ていた日本人の大学生選手をびっくりさせていた。

＜女子・76kg級＞

日本の翁長真由美はスナッチ85kgに成功し、中国のCao Jieに体重差でトップに立つが、ジャークでは逆にCaoに7.5kgの差をつけられた。

＜女子・83kg級＞

韓国のJiyoon Kyungは3本目でスナッチ83kgの韓国新記録に成功、ジャークでも110kgを差し、新井深雪にトータル20kgの差をつけた。

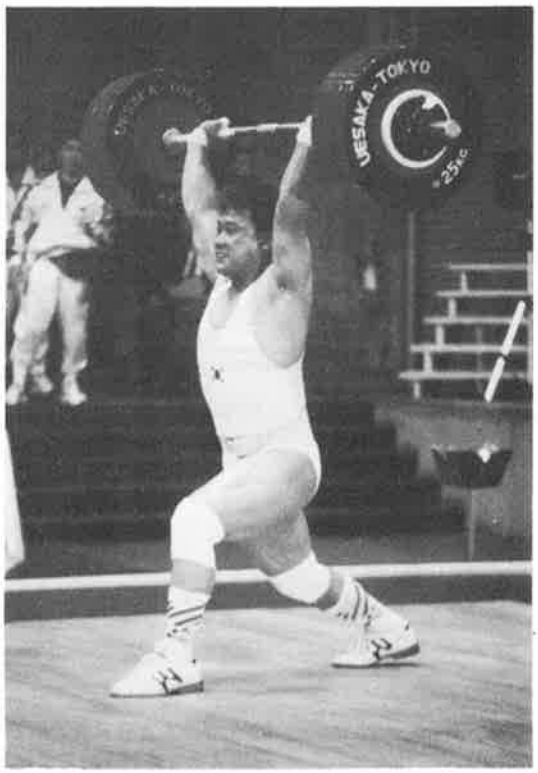
＜女子・83kg級＞

出場は中国のShen Cuixia一人であった。記録は4本成功でトータル210kgであった。

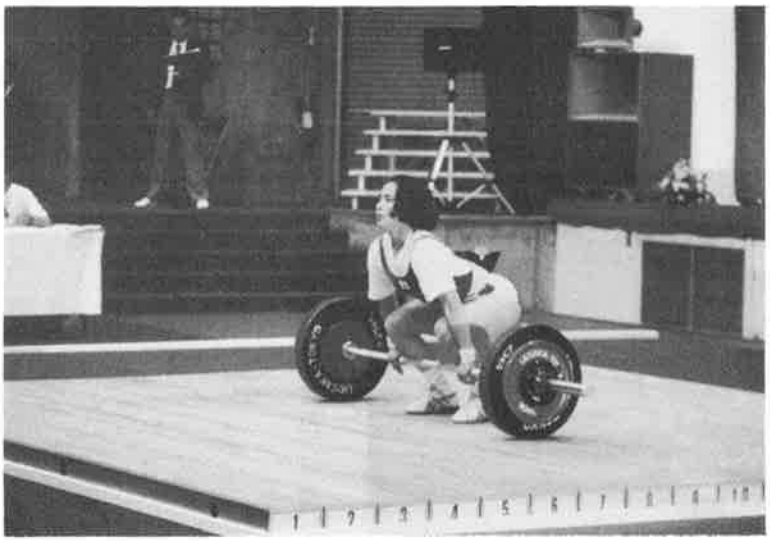
女子について考えると、日本選手は非常にテクニックが上手く、理にかなったフォームをしている。逆に中国の選手では失敗と成功がはっきりしており、失敗するときは実にあっけないというか、もう少しがまんすればとれるのではないか、というような失敗をする。しかし、日中の力の差は歴然としていた。今回来た中国選手は国内トップになるような選手がいないにもかかわらず、ほとんどの選手が日本人選手よりもはるかに強い。これはどうしてだろうか？

中国・韓国の人によく日本の女子選手はものすごくきゃっしゃだね、と言われた。確かに日本人の女子選手は脂肪も少ない脂肪がすくなければ同じ階級内では筋肉の量が多いことになり、比較的有利なはずである。しかし

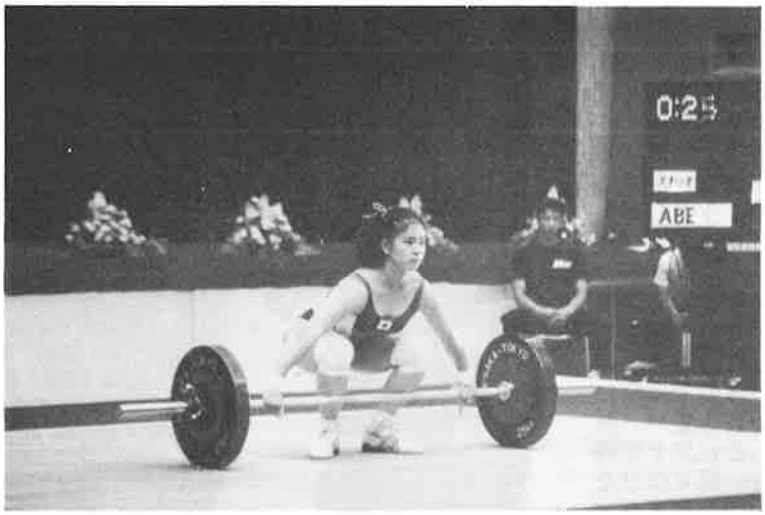
この公式は通用しなかった。同じ階級内で較べると、日本人選手は背が高く、すらっとしている。中国・韓国の選手はやや「ずんぐりむっくり」である。これは「階級」に関する考え方の違いを表しているのではないか？
日本人はとかく下の階級へ下げようとしがちである。しかし中国・韓国では食べるだけ食べ、トレーニングするだけトレーニングし、とにかく筋肉をつけようつけようとしているのではないだろうか？　筋肉がついた結果、体重が増えたら、それに見合った階級で出ればよい…そんな毎日を送っているのではないだろうか？　日本人選手は確かにうまい、試合運びなども慎重である。が、これ以上記録を伸ばすにはよほど力をつけない限り伸びないような雰囲気がある。逆に中国の選手など特に「これでテクニックがついたらどれだけおそろしいことか…」という未知の雰囲気がある。
　何か発想の転換をしなければいけない時期が来ているのではないだろうか。



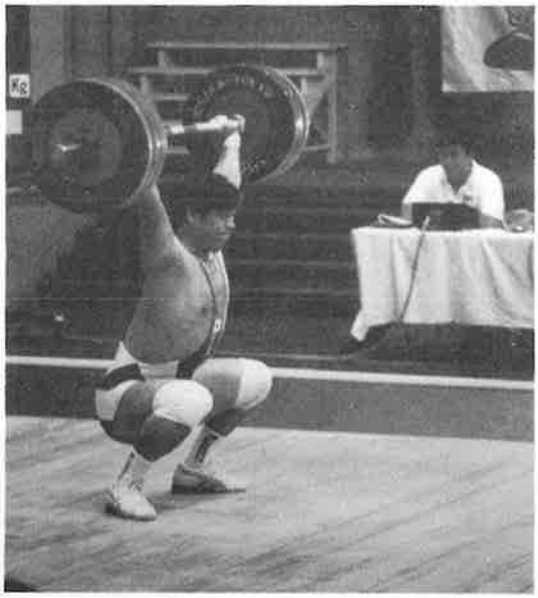
83kg級 Yeom(KOR)東アジアチャンピオンはジャーク95kgを決め優勝。



54kg級優勝植村ひろみ（京都体育協会）は中国のZhou Jingweiを体重差で勝つ。



59kg級阿部真美（日体大）は
Su Yuanhong（中国）に次いで
第２位と健闘したスナッチ80kg。



99kg級西本宣充アジア新で
優勝スナッチ155kgスタート。

世界チャンピオン全(KOR)は64kg級で堂々優勝。

1993 ジャパン インターナショナル フレンドシップ トーナメント

● 平成5年6月26日～27日 ● 群馬県水上町

男子54kg級

順位	氏名	国名	体重	スナッチ 1	スナッチ 2	スナッチ 3	クリーン&ジャーク 1	クリーン&ジャーク 2	クリーン&ジャーク 3	ベスト スナッチ	ベスト ジャーク	トータル
1	Bi Zhongxiang	CHN	53.80	105.0	110.0	115.0	130.0	137.0×	137.5	115.0	137.5	252.5
2	渡辺 博	JPN	53.55	105.0	110.0	115.0×	125.0×	125.0	130.0×	110.0	125.0	235.0
3	小野寺浩亀	JPN	53.95	100.0	105.0	107.5×	125.0	130.0	130.0×	105.0	130.0	235.0

59kg級

1	Cho Joon-Ho	KOR	59.00	110.0	115.0	117.5	145.0×	145.0	150.0	117.5	150.0	267.5
2	佐々間勝彦	JPN	58.55	115.0×	115.0	120.0×	140.0	145.0	147.5	115.0	145.5	262.5
3	Yuan Jianfeng	CHN	54.55	110.0	115.0	117.5×	135.0	140.0	142.5×	115.0	140.0	255.0

64kg級

1	ChunByung-Kwan	KOR	61.40	127.5	135.0	140.5×	160.0	167.5×	167.5	135.0	167.5	302.5
2	池畑 大	JPN	61.60	120.0	125.0	127.5	155.0	160.0	160.0	127.5	155.5	282.5
3	IdHUANGHUAN	CHN	62.80	115.0	122.5	127.5×	145.0	150.0×	150.0	122.5	145.0	267.5

70kg級

1	Kim Hak-Bong	KOR	69.15	130.0	135.5	140.0×	175.0×	175.0	180.5	135.5	180.5	315.0
2	Yin Weiquan	CHN	65.40	110.0	115.0	120.0	130.0	135.0	140.0	120.0	140.0	260.0

76kg級

1	Li Jinhe	CHN	74.05	142.5	150.0×	155.5×	175.0	180.0	185.0	142.5	180.0	322.5
2	Quan Qiyong	CHN	73.50	140.0	145.0	145.0	120.0			140.0	120.0	260.0

83kg級

1	YeomDong-Chul	KOR	82.85	150.5×	150.5	155.0×	185.0×	185.0	190.0	150.5	190.0	340.0
2	Lu Ruqi	CHN	80.40	150.0×	150.0×	150.0	180.0	187.5	187.5	150.0	187.5	337.5
4	Xu Gang	CHN	77.75	130.0×	130.0	135.0×	160.0	170.0	170.0	130.0	170.0	300.0

91kg級

1	Kin Byung-Chan	KOR	90.10	155.0	185.5×	185.5×	195.0	203.5×	203.5×	155.0	195.0	350.0
2	稲垣 英二	JPN	90.35	130.0	135.0	140.0	170.0	175.0×	177.5×	144.0	170.0	310.0

99kg級

1	西本 宣充	JPN	97.85	155.0×	155.0	160.0	200.0	205.0	207.5	180.0	207.5	387.5
2	HwangHee-Dong	KOR	95.90	150.0×	150.0	155.0	200.0	205.5	212.5×	155.0	205.5	360.0
3	ChunYong-Sung	KOR	92.55	147.5	155.0	157.5×	190.0	195.0	206.0	155.0	195.0	360.0
4	西川 智之	JPN	96.55	145.0	150.0	155.0	190.0	185.0×	105.0×	155.0	190.0	340.0

108kg級

1	Chung Dee-Jin	KOR	104.80	150.0	157.5	160.0	200.0	210.5×	210.5	160.0	210.5	370.0

+108kg級

1	Park Hoon	KOR	122.95	150.0	160.0×	160.0	190.0	200.0×	200.0	160.0	200.0	360.0
2	青木　延明	JPN	115.35	130.0×	130.0	137.5	170.0	175.0	177.5	137.5	177.5	315.0

女子46kg級

1	Zhang Yanping	CHN	45.05	65.0	70.0	77.5×	82.5	90.0	92.5×	70.0	90.0	160.0
2	斎藤さと美	JPN	45.55	62.5	65.0×	65.0	82.5	85.0×	85.0	65.0	85.0	150.0

50kg級

1	Choi Myung-Shik	KOR	49.85	70.0	72.5	75.0×	90.0	95.0	97.5	72.5	95.0	167.5
2	安田　直子	JPN	48.95	65.0	65.0	67.5	85.0	87.5×	87.5×	67.5	85.0	152.5
3	加藤　智子	JPN	49.65	62.5×	62.5×	62.5	80.0	82.5	85.0	62.5	85.0	147.5

54kg級

1	植村ひろみ	JPN	52.45	72.5	75.0	77.5×	92.5	95.0	100.0	75.0	95.0	170.0
2	Zhou Jingwei	CHN	53.25	70.0	75.0	77.5×	95.0	100.0×	100.0×	75.0	95.0	170.0
3	Oh-Kyung	KOR	50.90	70.0	72.5	75.0×	90.0	95.0×	95.0	72.5	95.0	167.5
4	Sing Young-Ju	KOR	52.20	67.5	70.0	72.5	90.0	95.0×	95.0	72.5	95.0	167.0

59kg級

1	Su Yuanhong	CHN	54.60	80.0	85.0×	85.0	100.0	105.0	110.0×	85.0	105.0	190.0
2	阿部　真美	JPN	57.60	75.0	80.0	82.5×	95.0	97.5	100.0	80.0	100.0	180.0
3	Su Yuanhong	CHN	58.85	70.0	75.0	77.5×	95.0×	95.0	100.0×	75.0	95.0	170.0

64kg級

1	Huang Ying	CHN	63.10	85.0	87.5	90.0	100.0	107.5×	107.5	90.0	107.5	197.5
2	Choi EAUN-jA	KOR	61.75	80.0	82.5×	82.5	100.0	102.5	105.0	82.5	105.0	187.5
3	高橋百合子	JPN	62.75	77.5×	77.5	82.5×	105.0	110.0×	110.0	77.5	110.0	187.5

70kg級

1	Xu Chunxia	CHN	66.40	90.0	102.5×	102.5×	112.5	125.0	132.5	90.0	125.0	215.0
2	Won Soon-Yi	KOR	64.10	80.0	85.0×	85.0	107.5	112.5×	112.5	85.0	112.5	197.5
3	長谷場久美	JPN	68.35	85.0	90.0×	90.0×	107.5	112.5×	112.5	85.0	112.5	197.5

76kg級

1	Cao Jie	CHN	72.30	80.0	85.0	87.5×	102.5	105.0	110.0	85.0	110.0	195.0
2	猪長真由美	JPN	70.40	80.0	85.0×	85.0	100.0	102.5×	102.5	85.0	102.5	187.5
3	Kim Eun-Ha	KOR	72.75	75.0	85.0×	80.0×	100.0	105.0	110.0	75.0	110.0	185.0

83kg級

1	Jiyoon Kyung	KOR	81.60	77.5	80.0	83.0	105.0	110.0	112.5×	83.0	110.0	192.5
2	新井　深雪	JPN	77.25	72.5	77.5×	77.5×	95.0	100.0×	100.0	72.5	100.0	172.5

+83kg級

1	Shen Cuixia	CHN	89.40	80.0	90.0	95.0×	100.0	120.0	130.0×	90.0	120.0	210.0

永遠の記念碑

１９９１年１月からの新体重階級制への移行に伴い、ＩＷＦ（国際ウエイトリフティング連盟）は、「ジュニア」「女子」の3部門の旧階級の最終世界記録を、機関誌「ワールドウエイト リフティング」に掲載し、栄光の記念碑として讃えた。

日本ウエイトリフティング協会もこれになり、ここに旧階級に心からの敬意を表します。

シニア日本記録

階級	種目	記録	氏名	所属		樹立年月日			大会名
52 kg	スナッチ	113.0	渡辺 博	富士急（株）	山梨	1992	5	9	第25回バルセロナ五輪代表選考会
	ジャーク	135.0	小高 正宏	日本体育大学	兵庫	1980	10	13	第35回国民体育大会
	トータル	247.5	真鍋 和人	一宮グループ	愛媛	1982	7	9	第42回全日本選手権大会
56 kg	スナッチ	120.5	三木 巧司	自衛隊体育学校	埼玉	1976	10	25	第31回国民体育大会
	ジャーク	150.0	細谷 治朗	日本体育大学・教	東京	1977	6	11	第37回全日本選手権大会
	トータル	265.0	池畑 大	大阪商業大学	鹿児島	1992	11	4	1992年日中友好大会
60 kg	スナッチ	130.0	村木 洋介	倉敷商業高校・教	岡山	1985	7	5	第45回全日本選手権大会
	ジャーク	159.0	村木 洋介	倉敷商業高校・教	岡山	1989	9	19	第44回国民体育大会
	トータル	285.0	村木 洋介	倉敷商業高校・教	岡山	1985	7	5	第45回全日本選手権大会
67.5 kg	スナッチ	140.0	佐々木保重	鶴岡西高校・教	山形	1984	5	6	第23回オリンピック最終選考会
	ジャーク	173.0	平良 朝治	奥武山体育館	沖縄	1985	10	22	第40回国民体育大会
	トータル	307.5	平井 一正	亀山高校・教	三重	1978	6	24	第38回全日本選手権大会
75 kg	スナッチ	148.0	平仲 康	自衛隊体育学校	埼玉	1991	7	5	第51回全日本選手権大会
	ジャーク	185.0	水野 英郎	日本大学	千葉	1992	6	23	第52回全日本選手権大会
	トータル	327.5	福田 輝彦	大津市勤労青少年ﾎｰﾑｸﾗﾌﾞ	滋賀	1980	11	8	第17回日本社会人選手権大会
82.5 kg	スナッチ	165.5	砂岡 良治	ユニデン（株）	千葉	1988	6	22	第48回全日本選手権大会
	ジャーク	205.5	砂岡 良治	ユニデン（株）	千葉	1988	6	22	第48回全日本選手権大会
	トータル	370.0	砂岡 良治	ユニデン（株）	千葉	1988	6	22	第48回全日本選手権大会
90 kg	スナッチ	161.5	砂岡 良治	今市青少年ｽﾎﾟｰﾂｾﾝﾀｰ	栃木	1985	6	16	1985年日中友好大会
	ジャーク	203.0	砂岡 良治	今市青少年ｽﾎﾟｰﾂｾﾝﾀｰ	栃木	1984	4	16	第44回全日本選手権大会
	トータル	360.0	砂岡 良治	今市青少年ｽﾎﾟｰﾂｾﾝﾀｰ	栃木	1985	6	16	1985年日中友好大会
100 kg	スナッチ	165.0	西本 宣充	布施総合運動公園	鳥取	1992	8	2	第25回バルセロナオリンピック大会
	ジャーク	207.5	西本 宣充	布施総合運動公園	鳥取	1992	8	2	第25回バルセロナオリンピック大会
	トータル	372.5	西本 宣充	布施総合運動公園	鳥取	1992	8	2	第25回バルセロナオリンピック大会
110 kg	スナッチ	163.5	富樫 嘉文	酒田北高校・教	山形	1992	10	8	第47回国民体育大会
	ジャーク	202.5	西本 宣充	布施総合運動公園	鳥取	1992	6	24	第52回全日本選手権大会
	トータル	360.0	戸松 伸隆	埼玉栄高校・教	埼玉	1988	7	16	第23回日韓親善大会
+110 kg	スナッチ	163.0	富樫 嘉文	酒田北高校・教	山形	1992	11	19	1989年日中友好大会
	ジャーク	201.0	溝口 敏男	静岡県ＷＬ協会	静岡	1991	7	6	第51回全日本選手権大会
	トータル	352.5	富樫 嘉文	酒田北高校・教	山形	1988	11	19	1989年日中友好大会

ジュニア日本記録

階級	種目	記録	氏名	所属		樹立年月日			大会名
52	スナッチ	105.0	小高　正宏	日本体育大学	兵庫	1980	8	17	第34回兵庫県民体育大会
kg	ジャーク	135.0	小高　正宏	日本体育大学	兵庫	1980	10	13	第35回国民体育大会
	トータル	237.5	小高　正宏	日本体育大学	兵庫	1980	8	17	第34回兵庫県民体育大会
56	スナッチ	115.0	佐久間勝彦	日本大学	福島	1990	9	1	第17回東北総合体育大会
kg	ジャーク	140.5	佐久間勝彦	日本大学	福島	1990	10	22	第45回国民体育大会
	トータル	250.0	安藤　謙吉	日本大学	岐阜	1970	11	8	第6回アジア大会代表選考会
60	スナッチ	122.5	佐藤　和夫	日本体育大学	宮城	1989	11	7	第35回全日本大学対抗選手権大会
kg	ジャーク	153.0	橘　典人	日本大学	北海道	1992	4	4	第13回全日本ジュニア選手権大会
	トータル	272.5	橘　典人	日本大学	北海道	1992	4	4	第13回全日本ジュニア選手権大会
67.5	スナッチ	137.5	水野　英郎	日本大学	千葉	1990	12	1	第36回全日本大学対抗選手権大会
kg	ジャーク	167.5	水野　英郎	日本大学	千葉	1990	12	1	第36回全日本大学対抗選手権大会
	トータル	305.0	水野　英郎	日本大学	千葉	1990	12	1	第36回全日本大学対抗選手権大会
75	スナッチ	137.5	堀越　典昭	日本体育大学	栃木	1992	9	19	第20回東日本大学対抗選手権大会
kg	ジャーク	172.5	堀越　典昭	日本体育大学	栃木	1992	9	19	第20回東日本大学対抗選手権大会
	トータル	310.0	堀越　典昭	日本体育大学	栃木	1992	9	19	第20回東日本大学対抗選手権大会
82.5	スナッチ	157.5	砂岡　良治	日本体育大学	栃木	1982	8	13	第8回ジュニア世界選手権大会
kg	ジャーク	195.0	砂岡　良治	日本体育大学	栃木	1982	11	25	第9回アジア大会
	トータル	350.0	砂岡　良治	日本体育大学	栃木	1982	11	25	第9回アジア大会
90	スナッチ	155.5	砂岡　良治	日本体育大学	栃木	1982	10	7	第37回国民体育大会
kg	ジャーク	202.5	砂岡　良治	日本体育大学	栃木	1982	10	7	第37回国民体育大会
	トータル	357.5	砂岡　良治	日本体育大学	栃木	1982	10	7	第37回国民体育大会
100	スナッチ	150.0	佐野　衛	自衛隊体育学校	埼玉	1992	10	7	第47回国民体育大会
kg	ジャーク	190.0	佐野　衛	自衛隊体育学校	埼玉	1992	10	7	第47回国民体育大会
	トータル	332.5	佐野　衛	自衛隊体育学校	埼玉	1992	10	7	第47回国民体育大会
110	スナッチ	145.5	吉本　久也	法政大学	沖縄	1992	9	6	第37回全日本学生新人選手権大会
kg	ジャーク	185.0	吉本　久也	法政大学	沖縄	1992	9	6	第37回全日本学生新人選手権大会
	トータル	330.0	吉本　久也	法政大学	沖縄	1992	9	6	第37回全日本学生新人選手権大会
+110	スナッチ	147.5	徳山　浩明	中央大学	兵庫	1989	11	22	第13回東日本学生個人選手権大会
kg	ジャーク	190.0	吉本　久也	法政大学	沖縄	1992	11	26	第38回全日本大学対抗選手権大会
	トータル	332.5	吉本　久也	法政大学	沖縄	1992	11	26	第38回全日本大学対抗選手権大会

女子日本記録

階級	種目	記録	氏名	所属		樹立年月日			大会名
44	スナッチ	62.5	斎藤さと美	城南高校	京都	1990	9	23	第11回アジア大会
kg	ジャーク	82.5	斎藤さと美	城南高校	京都	1990	9	23	第11回アジア大会
	トータル	145.0	斎藤さと美	城南高校	京都	1990	9	23	第11回アジア大会
48	スナッチ	67.5	斎藤さと美	日本体育大学	京都	1992	4	3	第6回全国女子選手権大会
kg	ジャーク	87.5	斎藤さと美	日本体育大学	京都	1992	11	7	東四国国体記念杯大会
	トータル	155.0	斎藤さと美	日本体育大学	京都	1992	11	7	東四国国体記念杯大会

階級	種目	記録	氏名	所属		樹立年月日			大会名
52	スナッチ	75.0	植村ひろみ	日本体育大学	京都	1990	4	15	第4回全国女子選手権大会
kg	ジャーク	95.0	植村ひろみ	日本体育大学	京都	1991	9	29	第5回女子世界選手権大会
	トータル	167.5	植村ひろみ	日本体育大学	京都	1990	5	28	第4回女子世界選手権大会
56	スナッチ	77.5	植村ひろみ	日本体育大学	京都	1990	5	11	第2回女子学生オープン選手権大会
kg	ジャーク	100.0	植村ひろみ	日本体育大学	京都	1991	11	15	べにばな国体記念杯大会
	トータル	177.5	植村ひろみ	日本体育大学	京都	1991	11	15	べにばな国体記念杯大会
60	スナッチ	80.0	阿部　真美	日本体育大学	埼玉	1991	11	16	べにばな国体記念杯大会
kg	ジャーク	100.0	髙橋百合子	埼玉短期大学	埼玉	1992	12	22	第5回アジア選手権大会
	トータル	177.5	髙橋百合子	埼玉短期大学	埼玉	1992	12	22	第5回アジア選手権大会
67.5	スナッチ	93.0	長谷場久美	埼玉栄高校・教	埼玉	1992	11	8	東四国国体記念杯大会
kg	ジャーク	115.0	長谷場久美	埼玉栄高校・教	埼玉	1991	6	9	第5回全国女子選手権大会
	トータル	205.0	長谷場久美	埼玉栄高校・教	埼玉	1991	7	5	第26日韓親善大会
75	スナッチ	92.5	長谷場久美	埼玉栄高校・教	埼玉	1991	11	16	べにばな国体記念杯大会
kg	ジャーク	117.5	長谷場久美	埼玉栄高校・教	埼玉	1991	11	16	べにばな国体記念杯大会
	トータル	207.5	長谷場久美	埼玉栄高校・教	埼玉	1991	11	16	べにばな国体記念杯大会
82.5	スナッチ	70.5	福本裕華子	尼崎小田高校	兵庫	1992	11	8	東四国国体記念杯大会
kg	ジャーク	97.5	新井　深雪	埼玉栄高校・教	埼玉	1992	11	8	東四国国体記念杯大会
	トータル	167.5	新井　深雪	埼玉栄高校・教	埼玉	1992	11	8	東四国国体記念杯大会
+82.5	スナッチ	67.5	山下恵美子	関東トナミ運輸(株)	埼玉	1992	11	8	東四国国体記念杯大会
kg	ジャーク	90.0	山下恵美子	関東トナミ運輸(株)	埼玉	1991	11	16	べにばな国体記念杯大会
	トータル	155.0	山下恵美子	関東トナミ運輸(株)	埼玉	1991	11	16	べにばな国体記念杯大会

お　願　い

本誌の内容を豊かにするために、競技会の写真、情報、論文等、何でも結構ですので下記宛にお寄せ下さい。

〒150　東京都渋谷区神南１－１－１　岸記念体育会館内
（社）日本ウエイトリフティング協会
普及委員会出版担当宛

補　足　説　明

※　「会報」の記録記載は、各体重階級の10位者迄（ただし、国際競技会出場日本選手はこの限りではない。また、高校総体及び国民体育大会は20位迄記載する。）とし、全出場者の記録は「年鑑」に掲載します。

※　記録表中の記号等は、以下の意味を表しています。

WR＝世界新記録
WJ＝ジュニア世界新記録
AR＝アジア新記録
AJ＝ジュニア・アジア新記録
NR＝日本以外の国の国内新記録
NJ＝日本以外の国の国内ジュニア新記録
□＝各種タイ記録（除く大会記録）
○＝大会新記録
△＝大会タイ記録
★＝特別試技
JR＝日本新記録
JJ＝ジュニア日本新記録
UR＝大学日本新記録
HR＝高校日本新記録
MR＝中学日本新記録

ウエイトリフティング　NO.５７

（社）日本ウエイトリフティング協会会報
発　行　日　　平成　６年３月３１日
発　行　者　　（社）日本ウエイトリフティング協会
普及委員会
東京都渋谷区神南１－１－１
岸記念体育会館内
TEL　０３（３４８１）２３５９
FAX　０３（３４８１）２３９４
編集責任者　　専務理事　　桜井　勝利
編　集　長　　普及委員会委員長　関口　　脩